

古川学園高校との意見交換会 報告書

(令和6年1月1日開催)

大崎市議会 議会運営委員会

古川学園高校との意見交換会実施概要

1 日 時 令和6年11月1日（金）
午後1時30分から午後2時30分

2 場 所 大崎市役所本庁舎 5階 議場

3 意見交換会出席者

○古川学園高等学校
普通科総合コース3学年 文系系列選択生徒 23名

○大崎市議会

佐藤弘樹 議会運営委員長・総務常任委員

小嶋匡晴 議会運営副委員長・総務常任委員

木村和彦 民生常任委員長

石田政博 民生常任副委員長

八木吉夫 産業常任委員長

法華栄喜 産業常任副委員長

横山悦子 建設常任委員長

小玉仁志 建設常任副委員長

後藤錦信 議長

4 テーマ 大崎市に賑わいを～大崎市の観光振興について～

5 次 第 開会

開会のあいさつ 後藤錦信議長

議会のしくみについて 佐藤弘樹議会運営委員長

意見交換会（詳細 次項）

閉会のあいさつ 木村和彦民生常任委員長

閉会

【意見交換詳細 －質疑応答－】

◆発表者1：観光によるまちづくりについて

問 今現在子ども達などの遊び場が少なくなっていると思うので運動施設などが古川などにあれば活性化すると思います。

答 大崎市では未就学児や小学生が遊べる児童公園について、現時点で具体的な計画はありません。しかし、議会の一般質問を通じて、子どもたちが遊べる場所や屋内施設整備の要望は行っています。

問 大崎市は、道の駅や商業施設などが充実していてとても、良いと思います。

駅の近くでバスなどをよく見ますがバスのデザインなどがシンプルでキャラクターなどとコラボなどをするすれば乗りたいと思う人が増えて、乗客数が増加すると思います。

答 全国的に町おこしの一環としてラッピングバスを運行している自治体が多く存在しており、大崎市でも平成28年10月から公式キャラクター「パタ崎さん」を用いたラッピングバスを中心市街地で運行しています。

また、ポケモンやディズニーのようなキャラクターは権利の問題があり実現には難しさが伴います。それでも、今回いただいたご提言を今後の議会で反映できるよう議論して行きたい。

問 今現在子ども達などの遊び場が少なくなっていると思うので運動施設などが古川などにあれば活性化すると思います。

答 鳴子温泉郷に多くの方に訪れていただくためには、観光地域づくり法人（DMO）の設立が必要と考えています。DMOが中心となり、観光客への対応や観光地の魅力発信を一元化することで、さらに多くのお客様を呼び込めると考えています。

現在、大崎市には鳴子観光協会や大崎市観光協会がありますが、これらが協力してDMOの役割を果たせば、より効果的な観光地づくりが進むと思われますので、DMOの設立に向けて頑張っていただきたいと考えます。

◆発表者2：空き家の有効活用について

問 都市部にはたくさんの専門学校があるのに地方にはそんなないので、それを学ぼうとする学生が都市部へ上京したり、今流行っている「言葉」や「食べ物・飲み物」、「TikToker」に「俳優・女優」、また「アニメ」、「アーティスト」など「Z世代」と言われる現代の若者が好む事象全てが東京を中心に回っているため、地方から若者が減少し、人口減少や少子高齢者が進んでいると思います。

そのため地方に学生や若い世代が住みやすいように専門学校や大学を多くしたり、若い人たちが活躍できるようなショップや施設を建設したりすると良いと考えまし

た。また、娯楽施設やジムなども建設したりするのも良いと思います。

音楽が発展していた方が、その地域も活性化すると思うので、仙台だけではなく大崎にも有名なアーティストを呼んだりするのもよいと考えます。

答1 都市部から発信されるZ世代が好む文化や魅力が、地方の若者に都市への憧れを抱かせ、大崎市の少子高齢化を加速させる一因となっている点は、同感です。市としても若者が地方に住み続けられる環境づくりを進めることが重要だと強く感じています。そのためには、地域に多様な学びの場やキャリアの選択肢を増やすことが必要であり、地方でも最先端の情報や流行に触れられる環境を整え、地域での生活が都市と同じくらい魅力的なものになるよう議会として考えてまいります。

答2 大学や専門学校があることで、学生や教職員が地域ににぎわいを生む効果が期待されます。しかし、全国的に少子化が進み、多くの私立大学が定員割れの状態にあります。このような厳しい環境の中で、特に地方への大学や専門学校の誘致は非常に困難です。

それでも、大学や専門学校の誘致は地域にとって非常に喜ばしいことあります。誘致に関しては議会としても全面的に応援したいと考えています。

◆発表者3：大崎市の文化活動について

問 大崎市は近年、人口減少が目立っており、特に若年層の都市部への流出が問題になっています。それに伴い、出生率の低下と高齢化が進行しています。特に宮城県では、仙台市以外の市町村の人口減少が止まりません。これにより、労働力や消費者層が減少し、地域経済の縮小を招いており、さらなる人口減少の悪循環を引き起こしていると思います。

その人口流出、減少を引き留めるために、私はもっと音楽の活動を盛んにしていくべきだと思います。現在の大崎市では、「大崎市民合唱団」の活動や、音楽祭、市内出身の演奏家のコンサートなども行われていますが、どれも小規模で、魅力を感じて集まってくれるようなものになっていないと思います。市内で一番大きなホールである大崎市民会館でさえ902席、ホール自体が、まだ全国に比べると小さいです。まずは大規模なホールを建て、そのホールで県内外のアマチュアからプロまで、様々な演奏家を呼び、集客することで、魅力を感じてくれた人が定住し、人口の流出が防げると思います。

答1 「大崎市を音楽の町にする方策」、特に人口流出の歯止めや移住促進の視点での音楽活動の提言は、高校生らしい夢のある発想であり、感銘を受けました。

しかしながら、大崎市に大規模なホールを建設し、県内外の演奏家を招いて魅力を発信することについては、現在の大崎市民会館は昭和に建設され、平成25年に大規模改修を行ったものの、建て替えや新ホール建設の計画はない状況にあります。

また、市内外の音楽活動家が演奏の場を広げ、その活動を通じて大崎市を「音楽の町」として発展させる提案については、これは非常に素晴らしい考えであり、本市も「音楽が聞こえるまちづくり」に取り組んでいます。

ただし、これを実現するには、当事者や団体の積極的な行動が重要と考えます。市内には400以上の文化・社会教育団体が存在し、それ以外にも未把握の団体が多く活動しています。こうした皆さんと連携し、活動の調整や支援を行うことが大切だと考えています。

高校生の皆さんのが音楽活動や文化活動を通じて大崎市の活性化に貢献してくださることを期待しています。

答2 市では音楽活動を支援するための取り組みを行っています。少しだけご紹介させていただきますと、図書館にはピアノが設置されています。誰でも利用できるようになっていますので、ぜひ活用していただければと思います。

また、あすもには音楽スタジオが設置されています。ここでは、自由に楽器を持ち込んで演奏できるようになっているほか、あすもの外側はガラス張りで、夜間には照明がつき、ストリートダンスなどもできるようになっています。

こうした施設をまだ知らない方も多いかもしれません、ぜひ積極的に利用していただき、音楽活動を楽しんでいただければと思います。

◆発表者4：陸羽東線問題について

問 陸羽東線は7月25日から大雨の影響で運転を見合わせています。そこで、私が思っていることは、いつまで復旧工事がかかるのかという点と代行バスの本数です。まずいつから陸羽東線を動かすのかが明確になっていません。私の周りでも「動かす気がない」「紅葉シーズンなど人が来る時期にしか動かさない」といった言葉が聞こえてきます。これについては私も同じ意見を持っています。

次に代行バスの本数について私が思っていることは、本数が少ないということです。なぜもともとある電車の時間と同じ本数を動かさないのかと疑問に思っています。

これらの意見について私が思うことは、はやく情報の提供をすることや対応をするということが必要になってくると思います。

答 豪雨災害によって運休している鳴子温泉間と新庄間の復旧に関して、線路への土砂流入や鉄橋付近の護岸崩壊など複数発生しており、復旧には相当の時間がかかる見込みであり、現時点ではJR側から運行再開の明確な時期は示されていません。市としては、早期復旧を強く要望しており、JR側とこまめに情報交換を行っています。代行バスについては、8月23日から運行が開始され、初めは1日1往復のみでしたが、9月17日から1日3往復に増便されました。依然として本数が十分ではないものの、引き続き要望を重ねていきます。

また、鉄道の復旧に向けて、鳴子温泉と中山平間のピストン輸送の提案も行いましたが、JR側からは保安設備や資格を持った人員確保のハードルが高いとの回答を受けています。それでも、議会としても、代行バスの運行増便や鉄道の早期復旧に向けて要望を続けていきたいと考えています。

◆発表者5：駅の再開発について

問 現在の古川駅は昔に比べて商業施設が減少し活気も少なくなっています。古川駅は大崎市の中でも起点となる駅であるため、古川駅の再開発は他の駅の活性化にもつながると思います。

答 駅前にぎわいを復活させるための取り組みについては、市民からの声や意見を反映しつつ進めていくことが重要であると認識しています。特に、駅周辺の活気が失われているという現状について、多くの市民がその復活を望んでいます。

現在、地域の経済団体では駅前にぎわいを取り戻すための研究会が立ち上がり、市議会ではこのテーマを重点調査事項として取り上げ、具体的な施策について調査しています。市議会としては、他の自治体の事例を参考にしながら、市民の皆さんのお意見をしっかりと反映させた方策を検討していきます。

駅を利用されている皆さんには、どのような駅前にしたいかという具体的な意見を、ぜひ市議会に届けていただきたいと思います。その声をもとに、地域にとって最も効果的な施策を議論していくので、ご協力をお願いします。

問 駅の再開発として構内に飲食店やスーパーを設置することを提案します。

また、お土産や特産品を販売する規模を広げ古川を始めとした大崎市の魅力を最大限に伝えられる駅としてその駅でしか買えない特産品やガチャガチャを設置して活性化を図ることを提案します。

大崎市には魅力あふれる飲食店や観光施設がたくさんあります。それらの場所に足を運んでもらうためにも、まずは駅構内を賑やかにすることを私は大崎市に提案します。

答 古川駅のピボット跡地については市でも積極的に活用策を検討しています。特に、飲食店やスーパーのような施設があればよいという意見を元に、いろいろな角度からの検討を行いましたが、近隣に大型のドラッグストア系スーパーが登場しているため、食品スーパーの導入は難しいという結論に至りました。しかし、市としては、若い人たちが集まる場所として、物品購入に直接結びつかない可能性もあるものの、スケートボードパークなどのスポーツ施設を設置することも有力な案だと考えています。

また、ピボット跡地は市の所有地ではなく、JR東日本が所有している民間施設であるため、行政からの提案が直接反映されにくいこともあります。

なお、各駅に設置するガチャガチャについてのアイデアは非常に良いと思いました。これは行政が直接行うのではなく、民間企業や市民ファンドを活用して実現する方法が有効であると感じています。駅ならではの魅力的なアイテムを提供することで、地域外の人々にも興味を引き、集客につながると考えています。このようなアイデアを参考にし、今後とも駅周辺の活性化について議論していきたい。

◆発表者6：地域の活性化について

問 私が住んでいる加美町には、星あかりというイルミネーションがあるのですが、それがすごく人気で、県外の人からもすごく多くのお客様が来ています。

それを大崎市でもそういうイルミネーションを、冬限定とかでもいいので、検討していただければと思います。

答1 岩出山地域の有備館前駅では地域住民の皆さんがカンパでLED電気を準備し、12月2日から1月いっぱいまで点灯しています。特に岩出山高校生が楽しんでくれています。

さらに、先日、神奈川大学の学生が岩出山の内川沿いで行った150本の竹に紙灯籠を吊るすイベントも今年はじめて行いました。このように市が直接主導しなくても、地域の人々や外部の団体の力で生まれる活動もあります。

答2 古川駅は1日約7,000人の利用者がいますが、隣の仙台駅は9万人と東北最大の利用者数を誇ります。この違いからも、人の流れをどう作るかが駅前活性化の鍵となります。

商業施設は人の往来が多い場所に出店するため、誘致には限界があります。そのため、学校や企業など既に人が集まる拠点を生かし、人の流れをデザインする都市計画が重要です。

ご発表者の視点は、まちづくりにおいて非常に大事な視点ではないかと感じました。

【意見交換会の様子】

